

本日のプログラム

例会 第 2735 回

- 1.開会点鐘
- 2.ロータリーソング
- 3.ビジター紹介
- 5.会食
- 6.会長挨拶
- 7.幹事報告
- 8.出席報告
- 9.スマイルBOX
- 10.本日の卓話
- 11.閉会点鐘

例会の予定

- ・ 9月28日(金)
卓話：望月博文君
- ・ 10月5日(金)
社会奉仕：草下刈り
- ・ 10月12日(金)
ガバナー補佐訪問
- ・ 10月19日(金)
卓話：神谷一博君
- ・ 10月26日(金)
ガバナー公式訪問



会長挨拶

今週 18 日、和歌山の白浜町にある IT ビジネスオフィスに、内閣府がサテライトオフィスを設け、2 名の職員を常駐させたということです。

サテライトオフィスを設けるのは、一般的には IT 企業が多いのですが、「働き方改革」を唱える内閣府自身が白浜にサテライトオフィスを設けたというのは、政府としての本気度を示す意味合いが大きいのでしょうか。

白浜の町役場の方によると、これまで 13 社の企業誘致に成功しており、年間 200 社以上の企業が視察に訪れるそうですが、役場の方が白浜の強みとして挙げられているのは 2 つ。1 つが豊かな自然環境、もう 1 つが都心からのアクセスの良さです。

アクセスの良さ、というのは意外な感がありますが、羽田から南紀白浜空港まで 1 時間ということで、朝から東京に打ち合わせで向かうと、夕方には白浜のオフィスまで戻って来られる、というのが誘致のセールストークになっているそうです。

先程、自然環境とアクセスの良さとおっしゃいましたが、これは湯河原としての強みでもあります。東京からの所要時間で言うと、同じ 1 時間でも、湯河原は飛行機ではなくて電車です。白浜よりもはるかに有利です。

お隣の真鶴では、今年度から本格的にサテライトオフィス誘致を始めておられますが、自然あり温泉ありの湯河原にも十分なポテンシャルがありますので、今後町内でも検討していくべきテーマではないかと思っています。



スマイルBOX

9月21日～27日

- ・ 結婚記念日 石田浩二君（9 / 21）
- ・ 浅田真隆君・望月博文君・石田浩二君
- ・ 城堀産土（うぶすな）八幡神社の例大祭が 9/15・16 に無事終了致しました。
- ・ 石田浩二君 先週欠席させていただき副会長の杉山さんに挨拶をお願いいたしました。

出席報告	ゲスト 1 名 ビジター 0 名	会員 24 名
	欠席 7 名（免除者 2 名）	前回の修正出席率 81.82%
	出席率 77.27%	前々回の修正出席率 100.00%

事前メイクアップ 0 名

第 2780 地区 第 9 グループ

湯河原 ロータリークラブ

会長 石田 浩二
幹事 小倉 高代

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上

湯河原町宮上 566

湯河原町温泉観光協会内

例会場 静岡県熱海市泉 107

ニューウェルシティ湯河原

例会日 毎週金曜日 12:30～13:30



平成 30 年 9 月 21 日(金)

天候 晴れ

合唱 それでこそ
ロータリー



国際ロータリー2018-19

RI 会長 バリー・ラシン

第 2780 地区

ガバナー 脇 洋一郎



インスピレーションになろう

無し

卓話：石川 博君



ゲスト：野村證券株式会社小田原支店 支店長 宮里洋介様

「世界経済の現状」

本日は歴史ある湯河原ロータリークラブのメンバーの皆様の前で、卓話をさせて頂く機会を頂戴し誠に有難うございます。

今年はリーマン・ショックからちょうど10年を迎え、2016年イギリスのEU離脱問題やトランプ大統領の誕生により世界経済が再び不確実性が増している中で、現在足元で起こっている世界経済の現状についてお話をさせていただきます。

まず、足元の景気からご説明をさせていただきます。2009年から始まった今回の景気拡大局面は10年目に入ろうとしております。この間、各国は過去に例を見ない異例の金融緩和政策を継続してきました。FRBは既に出口に向けた歩みを進めておりECBも年内いっぱい資産の買い入れを打ち切る意向です。世界景気は今年も拡大基調を辿ると予想していますが、成長ペースは来年以降、鈍化することが予想されています。その中で、ポイントを絞ってご説明をさせていただきます。

【世界経済の課題① 移民問題】ご記憶に新しいと思いますが、2016年イギリスがEUを離脱した要因の1つはこの移民問題です。最新の統計では8人に1人がイギリス以外の国出身者で、12人1人が外国籍保持者になります。移民比率は13.1%で854万人です。アメリカも同様に移民比率は14.5%です。アメリカの人口は32,000万人ですので移民数は4,660万人に上ります。この移民数は断トツの1位です。ちなみに2位は1,201万人でドイツになります。これが経済格差を生み出すきっかけになり、トランプ大統領が誕生した要因の一つではないでしょうか。ちなみに日本の移民率は1.6%に留まっていますので、いかに移民が社会問題になっているかがお分かり頂けるのではないのでしょうか。

【世界経済の課題② ポピュリズムの台頭】先進国では「エリートは難民や移民に寛容だ」「エリートこそが自国を衰退させている」という考え方が増加し、エリートが推し進めるグローバル化やヨーロッパ統合による産業構造の空洞化などの痛みを押し付けられ、苦しんでいる人たちの声が大きくなり既存政党の弱体につながっているという構図です。欧州では13カ国の17のポピュリスト政党の得票率が上昇傾向にあり、平均で16%近くに達しています。トランプ大統領の支持層も明確です。全米51州のうちトランプ大統領を支持した州は州別世帯収入ランキングの平均を下回った州のほとんどがトランプを支持しました。

【世界経済の課題③ 広がる経済格差】リーマン・ショックが起きた08年までの20年間で所得増率が最も高いのは、中国を始めとする新興国の人々と、全体のわずか1%にあたる超富裕層です。一方で、唯一ほとんど増えていないのが、欧米や日本などの多くの人たちが属する先進国の下位中間層です。

【世界経済の課題④ 人手不足】先進国の失業率は歴史的な低水準にあり、雇用の増加に依存した成長は徐々に難しくなってきました。アメリカ、日本の景気拡大局面は戦後最長記録を塗り替えることが確実視されているような状況です。このため、労働需給がひっ迫し、人手不足が問題化しています。アメリカでは労働者市場で今最も大きな問題は、労働者を見つけることだと言われており、日本では8月の企業倒産件数のうち人手不足倒産が去年の2.3倍に増加しており、今後も増加傾向にあるだろうと指摘されています。

【世界経済の現状】実は技術進歩と経済のグローバル化の間には密接な関係があります。技術の進歩と経済のグローバル化が進展に促るに従って、海外との交易が盛んになっていきます。経済のグローバル化は良質で安価な製品の普及など、社会に恩恵をもたらす一方で、海外に職を奪われる、賃金格差が拡大するなど、不利益を被る人もおり、結果として社会を分断する負の側面を併せ持っています。グローバル化と技術進歩の歴史を辿ってみると3つの期間に分けることができ、その端緒は「1492年にコロンブスにより大西洋航路の発見まで遡る」と言われています。その後18世紀半ばごろの産業革命と呼ばれる技術革新により、急速にグローバル化が進展し、グローバル化の主体も国家から多国籍企業、個人へと移り変わってきました。グローバル化は歴史の必然であり、その流れが強力であるほど、折に触れて反グローバル化を唱える動きも台頭してきました。そして、今は第4次産業革命と言われている真っ只中です。イギリスのEU離脱もトランプ大統領の誕生も歴史からみるともしかしたら必然なのかもしれません。

【第4次産業革命と日本経済に及ぼす影響】総務省は第4次産業革命が実現した場合は、実現できなかったケースと比べて、2030年の日本の市場規模は270兆円程度大きくなると試算しております。産業別では情報通信産業だけではなく、商業・流通業・製造業やサービス業への影響が大きいとされています。第4次産業革命の実現によって、喫緊の課題も含めて日本経済の姿が大きく変わることが期待されています。

【まとめ】世界経済が突きつけられている課題は山積みです。どれも構造的な問題であり、今すぐに解決できるという問題ではないと思います。一方で、次の新しい世界の入口にあると考えてももしかしたら今起こっている問題・課題は必然なのかもしれません。このような変化の時は、資産運用においてもチャンスであると捉えることが出来ると思います。